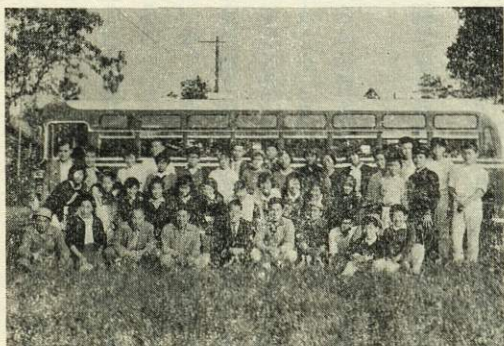


座 談 会 I

I 青少年問題協議会の地区活動

II 井戸端会議(1)



# Ⅰ 青少年問題協議会の地区活動

(一九六四・一)

出席者 森田徳三(熊川鍋二)

小林五作(福生牛二)

青柳福治(志茂二)

井上寅吉(夕加 美)

司会と記録 山崎茂男

青少協の役員になったが、何をやらたいのかなあ？

このごろ、青少協なんて、何をやってんのかい？

そんなことをいっている人が多い青少協のことについて、昨年特別成果をあげられた地区の委員さんの中から、右の皆さんにおあつまりをねがい、座談会をやっていただきました。

## 各地区の行事

司会 各地区の特殊の行事を、紹介していただきましょうか。

森田 うちの方では、まず護身術ですね。防犯協力会、PTA中学、青少協と三者でやりました。十日間ばかり、中学と高校の女生徒を警察へ連れていきましてね。講習を受けてこれを町会にもってきて、ひろめたわけです。

八月につり大会をやりましたが、これは小学生ばかりで、誰でもできるアンマ釣りをやりました。

英語教室というのもやっています。ちょうど会館の管理人さんが教えてくれるというもんですから、会費三百円ずつでやってもらっています。いま二十人くらいきていますかね。

青柳 一昨年は発足してさしてどうやらよかったらよいか迷っていた年だと思えます。昨年はその経験を生かして、まず主眼としては子どもをただ集めて喜ばせるだけでは少しものたりない。家庭の主婦を、こういう問題にどんどん引き入れるべきじゃないか。そういうけいもう運動をしようじゃないか。話し合いを重視していかうとしたんです。その一つとして田島先生をおよびして、子どもの作文について話してもらったのなんか、出席したお母さん方はとても感銘を受けたようですね。

むずかしい、そういうお話は別として、親子で一晩楽しんでおおうと、十月にお月見会を

やったんです、素人演芸会ですがね。ドタバタだったんですが楽しかったです。

中学生は、小学生といっしょというと、出たがらないですね。ところが行事はほとんど小学生相手に企画される。それで、中学生だけの行事と思って、二月にスケートをやらせるつもりです。おとなもいっしょにいつて、そういうふんいきをみてきょうとも考えています。

青少協独自ではないんですが、志茂では毎年祭礼のときに、子どもの金魚つり、ボンボン釣りやらしています。これはPTAがやっていたのをひきついだものです。ボンボンつくりなんか大変ですね。これは子どもたちに人気があります。

井上 加美の場合は、変わったものは一つもないですよ。加美、永田、長沢と、三ブロックがいろいろいっしょにやることが多いんです。防犯映画をやって、そのあと護身術をならったりもしましたがね、防犯映画も小学生が多くて、かんじんの中学生高校生は少ないですね。

八月には多摩川でたき火をたいて、ジャンボリーと名づけたのをやりました。これは子どもはよろこんでくれました。ボーイスカウトに熱心な人がいるもんですから、その人たちに大いに協力してもらっています。

山岳部の人をよんで、中高生向きの話をしてもらったりもしました。

小林 うちの方は、花いっぱい運動、盆おどり大会、映画会、母親懇談会、清掃、運動会、そ

んなことだったんですがね。

私の方針として、まず初歩的なことをやっていくこと、青少協をみんなに知らせていくことにおきました。

幸い町内に空地が多いですから、花いっぱいを考えました。空地は防犯上などめいわくもありますし、草ぼっこにしておくよりはと、一石三鳥をねらいました。花を大切にす情操教育というねらいもありました。

盆おどり大会は町会の行事で毎年やっていますが、子どもたちの参加の態度の指導なども特に心がけています。

九月に映画会をりましたが、男子の態度が少し悪いですね。大勢の中での態度について注意をしたんですが。

母親懇談会は出席が少なくて残念でした。

清掃は、自分たちのまわりをきれいにしようということです。

運動会ですが、これは福生町の青少協ではじめてのことだと思えます。これを計画したときはどうかと心配したんですが、十一月三日に実行しました。これは成功でしたね。

小学生も中学生もほとんど全員出てきました。二十歳前後の人も出てくれたし、やってよか

ったと思いました。

こういうことをやるについて、いろんな人が苦勞してくれるんだということで、例えば当日町内の人が家をからにしている。

空巢の心配があつて警察にパトロールを頼んだんです。その人が運動場のわきをとおるとスニーカーで、それを子どもに知らせたんです。

#### 役員

司会 役員の選出はどんなふうにやっていますか。

森田 役員の組織は、町会長を委員長にしているところが多いのですが、なんでも町会長におしつけるのは気の毒ですね。

青柳 志茂の場合は、行事ごとに分担委員をきめまして、その人たちが担当していくことにしています。具体的な行事の検討などに三十何人の委員が集まって議論したら大変ですから。

だれかがやってくれるんだらうでなくする意味からも行事の担当者を決めています。

井上 青少協の委員がいくら骨折しても、家庭が無関心ならだめですよ。非行少年は家庭に一番問題があるでしょう。

PTAでも青少協でも、子どものためにぜひ学んでもらいたい家庭が、出席してくれないんですね。

PTAでは、それで父兄会を学校でやるほかに、各部落ごとに分けてできるだけ出してもらっているんです。

司会 地区の委員会が活発に動く、その刺激になるように、本部の常任委員会も研究してもらいたい声もありますね。

青柳 常任委員は指導者で、指令を発するだけではものたりないですね。上の方から一つの方針を立てて下に伝達する、それでなくて、下部の活動のつきかさなりの実績の中から、そのいくつかを中央がとりあげていく、そういういき方がいいのでしょうか。

各地区のカラーのちがったものを展開していったら、それを中央がまとめて、何年かたったらその中から何かができていく、そういうものかもしれないですね。

問題は、一般の家庭で青少協というものを知っているのかどうか。委員さんだって無関心かもしれないですよ。

何かといえ子どもを集めて何かやっている。PTAかな、子ども会かな、そのていどでしょう。

何故青少協ができたか、それを親たちに理解してもらうことですね。その理解がないから委員さん自体が、町会だPTAだ、その上青少協なんかおしつけられて、もう役員はこりごりだ、という感じかたをしてしまうんです。

#### 青少協は地味な努力で

司会 皆さんが実際活動する上での苦勞を聞かせてください。

青柳 ひとつひとつの行事をとおして、何かの機会ごとに、町ぐるみで少しずつ前進していくべきですね。

青少協について、今どなたがどんな立派な考えをうち出してみても、ぜったいのものはないでしょう。

今の段階では、青少協を広くおしらせしていくべきですね。

森田 青少協は地味なものです。

青少協の委員さんたちと話しあうんですがまちがっても左側なんか歩かないでくれ、かんたんな交通道徳ひとつ守れないおとなでは、しょうがないと思うんです。

井上 交通道徳といえば、わたしの方のPTAが、子どもを交通事故から守るには、親が交通

規則を知らなくては、ということ、会員に軽いテストのようなことをやっただけですよ。

かんたんなことでも、ふだん守っていないようですね。そこで、すぐに警察の交通係りの人から、講習を受けました。

一同 PTAが、そういうことをやっていることは立派ですね。

#### 役員之苦心

青柳 いままで例ですと、お金(補助金)が各地区へわたるのがおそいですね。せめて、五月には出してもらえないですかね。

小林 選挙なんかの関係で、おそくなったこともあったが、まずいことです。

森田 うちの方なんか、十月近くになりましたよ。

司会 よき協力者を得るということも必要でしょう。

森田 わたしも、読書会、婦人学級、PTAなどやっていますが、一番の悩みは人が集まってくれないことですね。集まるメンバーがきまっちゃうんですよ。ものずきの集まりみたいにいわれたりしてね。

それと熊川の場合は、PTAの方で、子ども会など昔からがっちりやっていますから、青少

協が、何をやっていいか迷っちゃまうんです。

父親学級もPTAがやるんですが、これは出席はいいですよ。

司会 父親学級って、何をやるんですか。

森田 父親ばかりの父兄会をやるんです。なかなかいい話しあいができるんですよ。

井上 うちの方でもそうですが、PTAと子ども会、そして青少協がいっしょに何かやっているという感じですね。子ども会が苦しくて、会費を値上げしようなんていうときには、青少協が応援することもあるんです。

でも、そういうところに、ほとんど関係がないのが高校生以上で、これが一番問題なんです。

加美には、青壮年会というのがあるんですが、その連中で青年団と話しあいもするんですよ。

青年団は、会費なんか、もう十年も二十年も同じ三十円だそうですね。会費をあげて活動の財源にしたいというと、会費をあげるんなら、青年団なんかさようならだということだそうです。

青少協の中でも、青年がもっと何かやりたいが、われわれは青年団を守っていくだけで、精

一杯だというんですね。

司会 熊川でやっている英語会なんていうのは、学生なんかすすんで手伝いやすいではないかと思えますが。

森田 そうなってくれると、ありがたいですが。

子どものたのしみは

司会 昔は小正月なんか、どこでもまゆだまをかざったりしましたが、そういう風景もみられなくなりましたね。

井上 加美あたりもやらないですよ。昔からの農家だけでしょう、やっているのは。

青柳 われわれが子どものころは、正月の行事では、印象にのこっているものが多かったですね。

井上 そうですよ。だからお正月とかお盆様はたのしみだった。

ところがわたしが子どものころ、父親がよくいったんですが、おまえたちは毎日が正月かお盆だというんですね。

その点で、今の子どもはテレビだのなんだのと、正月やお盆なんていうより、ほかの楽しみ

が多いんですね。

小林 いまの子どもは、恵まれてますよ。

あそび場がほしい。

小林 青少協で何かやるとき、隣接の町会などにもよびかけて、協力してもらうことも必要です。

ここの珠算学校からわたしの方へ帰る子どもなんかも、暗いところが多いでしょう。

ですから、こちらでそういう街灯を考えたら、すぐ隣にも話して、そこに続けてもらっていますかね。

青柳 街灯があっても、暗すぎるところもありますね。本町あたりにある螢光灯の明るいのがいいですね。

森田 わたしの方では、防犯協力会長さんが熱心な人で、街灯をどんどんふやしています。費用がかかるんで、それに看板をつけて、一年契約で二千円ですが、そういう方法もありますね。

小林 熱意のある人がいてくれれば、そういうことがどんどん実現するんですね。

森田 だから、皆で役を持ちあうんですよ。町会長さんなんかになんでもおしつけちゃあ気の毒です。専任の人ならそれができるんです。

司会 そういうことで、子どものためにほしいものは、なんでしょう。

森田 広いあそび場がほしいですね。

小林 その点ではうちの方は恵まれてますね、グラウンドと公園が町内にあるでしょう。五時半では学校でも遊べますしね。

井上 うちの方も学校で遊べますよ。

司会 街頭の便所なんかも、ほしいですね。

#### ソフトボール大会

森田 ソフトボール大会ね。あれは暑い時でしょう。大変ですね。夏休みの対策から出たんでしょうが。

青柳 そのことだね。これはソフトボールに限らないんですが。

何人かの子どもたちを対象としたこういう行事が、青少協としてとりあげていくことが、いいとか悪いとかではなくて、一部の子どもたちだけにやってあげているような形、これの効果

に疑問を感じているんです。

小林 うちの方では、ですからほかに球技大会なんかやります。たしかに一部のおとなから異論は出ていますね。

森田 子ども全部がやれば、一番いいですよ。

青柳 志茂などでも、あのソフトボールには五千円もかかるんですよ。そして実際に参加できるのは、一部の子どもです。どうしても上手な子どもだけになる。

練習の過程に意義があるでしょうが、子ども同志はそうはいかない。へたな子には逆効果かも知れません。

小林 たしかですね。そういう一部の選手のやるような共通な行事には、町とか本部で、半分ぐらい経費を出したらどうですかい。

森田 うちの方でも、三万八千円の年間の予算の中から半分ちかくつかっちゃったですよ。二十六人のことだね。優勝チームということできょうなっちゃいました。一般から非難が出ちゃいますね。

小林 大会の練習をしている子どもには牛乳を出したり、お昼を心配したり、そういう経費が大きいですね。

森田 ソフトボール大会よりは、小林さんのところのように、運動会でもやった方がよほどいいですね。

井上 うちの方では、生徒全部が出て、球技大会をする日があるんです。四小の先生が指導に出てくれるんです。半日キャッチボールとかソフトボールで子どもを遊ばしてね。午後は先生とおとなが試合をやってみせたりして。先生がたが、こういうときにとても協力的ですよ。

小林 女の子に対するものが、むずかしいですね。

司会 そろそろむすびにしたいと思います。

青柳 学校の校庭など、はなれている地区のこどもにも、遊ばしてもらえる方法を考えたいですね。

それとこどもに、青少協への関心をもたしてもらいましょう。

小林 子どもばかりじゃなくて、おとなもですよ。

うちの方の運動会するとき、おとしよりも招待したんですが、子どもには、おとしよりが家の中でどういう立場にある人かとか、きょうこへ招待した意義も話したんです。

青柳 運動会といい、花いっぱい運動といい、そういう機会に情操教育をしている。とても感心させられました。



運動会の席で、おとしよりが正面にすえられて、みんながおとしよりを大事にしているんだという無言の教えをしている。

森田 われわれは、それぞれに地区の中では熱心に努力はしてきた。でもこうして皆さんとはじめてあって、じかに話してみても、実にいい勉強になりました。

司会 おいそがしい中を、皆さんありがとうございます。

(終)

## Ⅱ 井戸端会議(1)

### 「中学生のハイキング」

(一九六六・一一)

志茂地区青少協で、十月十六日に、中学生だけのハイキングをやりました。

志茂地区では、この行事は毎年実施しています。

往きの車中

「どうも皆さん御苦勞さま。ことしはこんなに多勢出てもらったんで、おじさんたちはとても喜んでいます。

いまから出席をとりますから返事をしてください。

「○○君、○○君、いますか」「いるよ」と窓外に目をやったままの○○君。こういう態度は確かに、小学生のころとはまるでちがってきています。

参加人員は三十三名。総員の約三割の出席率です。

青少協としては、中学生を対象の行事をやると、出席者が極端に少なくてもどこでも苦心しているのです。

「毎年、こういうことやってもみんなの出席が少ないでしょう。どうしてだろうな」

「クラスのレクリエーションなんかで、ときどき山へいくでしょ。そういうのすぐあとだとみんないやがる」

「山なんか疲れるから、疲れにいくだけだといってやめちゃう人が多いな」

「そうすると、中学生はどんなところを希望するの。来年の二月ごろはね、スケートをやらうと思うんだよ。そのときは、きょうみたいにタダというわけにゃいかないけど、みんなどうだろう」

「スケートはいいよ。みんなそれなら賛成するよ」

「学校で話しあっていくときはスケートなんてお金がかかるからいけないんだわ。女子なん

かだつて、スケートやってくればよろこぶと思うわ」

「テントをもつて行って、キャンプもいいな」

「それからね、幾人かで集まって遊ぶところが福生には少ないよ。ピンポンのできる場所があればいいな」

X

X

目的地へつくと、大人の委員さんと中学生が協力してたきぎを集め、ハンゴウすいさんと豚汁づくりです。おやつはチョコレートやせんべい、リンゴ等々といたれりつくせりです。

この費用は、昨年までは町からのお金でまかなえましたが、ことはそれが少ないので、委員が一日廃品回収をやって、きょうの資金をつくりました。

X

X

無事帰つてきてからの委員さんの話しあいの中で。

「本当はね、向うへ着いてからはせんぶ中学生にまかせればいいんだね。三年生にでも指図させて、うまくできようがどうだろうが料理も何も子どもまかせにするといいんだらうね」

「時間が少ないから、つい大人が手を出しちゃうんだが、来年は子どもにみんなやらせてみようか」

「だからね、三年生の男子が少し離れたところで自分たちだけのめしをたいてたでしょ。まきが少ないからこっちでいっしょに、っていったのにね。あれなんかも、そういう自分たちで自由にやりたいという気持なんだらうね」

「来年やるとき、中学生でなくなるけどきてもいいか、って行ってたけど、そういう子がきて後輩指導をやってくれると助かるんだな」

「そうだよ、そういう形にならなけりゃあうそなんだ。それでこそ青少協になるんだらうよ」

「中学生にでもなると、そばに大人がいるというのが、なんだかいやなんだな。だから、中学生の行事をやるときは、中学生の中やそれに近い子どもたちのリーダーがやってくれるのが一番いいんだよ、きつと」

(終)

(文責 山崎茂男)